

夏の夜が光り続けるために

学校法人札幌日本大学学園札幌日本大学中学校 二年 藤原 百葉

私は毎月、西岡公園で行っている魚や水生生物の調査ボランティアに参加しています。

この西岡公園は、札幌の市街地にある公園で、その中の水源地は、百年以上前に生活用水に使うために月寒川をせき止めて作られた池です。その、上流には湿原も広がり、様々な水環境があるとても魅力的な場所です。そして、ここには数多くの生き物も住んでいます。どの生き物もとても不思議で面白いのですが、その中に、指標生物であるホタルもいます。

指標生物とは、その生物が住んでいることで、その場所の水質がわかる生物のことです。ホタルは冷たいきれいな水に住み、同じ水質に住むカワニナという貝を主に食べています。

昨年、このホタルがいつもより多く観測されました。原因は何かと思い、ホタルの数の他に何か違いがあるのか考えてみました。昨年の調査のときに、川の石にゼリーのようなものが付いていて、よく滑ったことがありました。調べてみると、それはオオマリコケムシという生物でした。

オオマリコケムシとは、水中にいる茶色がかかった緑色でゼリー状の、個体がいくつも集まっている生物です。ホタルが多くなったのは、幼虫がオオマリコケムシをエサにしたからかもしれないと、公園のスタッフに聞きました。また、オオマリコケムシは、水温が15℃以上の水を好むそうです。水源地にオオマリコケムシが見られるようになったのは、水温がその前の年よりも地球温暖化や、地域の環境の変化などの影響で温かくなったからかもしれません。しかし、ホタルは冷たい水に住む生物なので、水温が上がるとホタルが住めなくなってしまいます。

水温が高くなることは、いままでいなかった生き物が増えるなど、生態系のバランスを崩すことも考えられます。オオマリコケムシが増えたことも、今はそれほど困ったことには見えないけれども、水温が上がること、ホタルには住みやすい環境ではなくなるかもしれません。

きれいな水がある環境は、私たちにとっても、なくてはならないものです。

この環境を維持していくために、今私たちができることの一つに地球温暖化対策があります。その他にもう一つ、身近な場所にも生き物がいるということをもっと多くの人に知ってもらうことも、大切なことだと思います。なぜかという、知ってもらうことで、例えばホタルはきれいな水が必要なことや、数日しか生きられないのでつかまえずに繁殖させてあげるなどの生態に興味を持ってもらうことができ、環境を維持することにつながるのではないかと思ったからです。

公園でも、ホタルのいる場所や、生態についてなどを説明する看板を立てたり、公園や生き物のことを知ってもらうための活動をしているそうです。

一人一人がそれぞれできることを少しでも考え、行っていくことが、この豊かな水環境を守ることにつながるのではないかと思います。

山からわき出た水は始めは少ししか流れていなくても、海に流れ出るときには大きな川になるように、私も、より多くの人に興味を持ってもらえるよう、生き物についての調査や発表をこれからも続けていきたいと思っています。